

2017年3月28日

報道関係 各位

第1回「JLAA 地方創生アワード」受賞者が決定
最優秀賞は、高崎市、桑名市、舞鶴市、岡山県、岡山市
優秀賞は、秋田県、男鹿市、水戸市、浅口市
 ～ 地方自治体の地方創生に向けた取り組みを対象に ～



一般社団法人日本地域広告会社協会
<http://www.jlaa.jp/>

全国の都道府県に本社を置く広告会社を会員に日本最大の広告会社ネットワークを有する一般社団法人日本地域広告会社協会（略称：JLAA、所在地：東京都港区新橋6-14-5、理事長：後藤 一俊・株式会社中広代表取締役、会員数：66社）はこのほど、第1回「JLAA 地方創生アワード」の受賞者を決定しました。

全国各地の地方自治体では、地方創生に向けたさまざまな取り組みを進めています。こうした中で、当協会は優秀な先進事例を社会全体で広く共有していくため、初めて「JLAA 地方創生アワード」を創設しました。会員社が平成27年度、28年度の2年間で、地方創生の分野で関わった地方自治体（都道府県および市町村）が主管する事業が全部で207件にのぼり、その中から優秀な事業を提出して頂き、審査を経て、最優秀賞5事業、優秀賞4事業の各賞を下記のとおり決定しました。3月21日、当協会会議室で表彰状の授与式を行い、桑名、舞鶴、男鹿の各市に理事長の後藤から賞状が手渡されました。

〈最優秀賞〉（5事業）	〈優秀賞〉（4事業）
●群馬県高崎市 「高崎ものづくり海外フェア事業」	●秋田県 「秋田定着意識付け事業」
●三重県桑名市 「桑名ブランド 首都圏パブリックリレーション」	●秋田県男鹿市 「中学生向けまちづくりワークショップ ～すべては未来の自分のために～」
●京都府舞鶴市 「舞鶴市首都圏PR活動事業」	●茨城県水戸市 「谷中二十三夜尊骨董市賑わい創出事業」
●岡山県 「平成27年度おかやまe農産物ポイントキャンペーン事業」	●岡山県浅口市 「浅口の土産開発」
●岡山県岡山市 「ヘルスケア産業創出・育成事業」	

* 賞別、都道府県順（北から）

《総評》

今回、各賞を受賞した9事業はいずれも地方自治体が直面する課題に対して、真摯に課題解決に取り組んだ事例ばかりでした。例えば、知名度を課題にした「桑名市」や「舞鶴市」は戦略的なPR活動でメディア内での信用を醸成し、多くのパブリシティにつなげています。「高崎市」は市内企業の海外販路開拓を丁寧なマッチング業務で実践。「岡山県」は有機農産物などの認知拡大をクーポン作戦で実現。また、「秋田県」は若い世代の流出を防ぐための具体的なソリューションを提示。

啓発普及事業は往々にして、目的が忘れられ、広告やイベントなどの手段が目的になったかのような事業運営になりがちですが、各賞の事業は、設定した課題の解決に最短距離で向かうように丁寧に設計されており、他の地方自治体において地方創生事業を企画、立案する際に、非常に参考になると判断しました。

＝ 第1回「JLAA 地方創生アワード」の概要 ＝

名称：第1回「JLAA 地方創生アワード」

選定期間：2017年1月30日～2月10日

対象事業：JLAA 会員が地方創生の分野で関わった地方自治体（都道府県および市町村）が主管する事業
※今回は第1回のため、平成27年度と28年度の2年間の事業が対象

表彰対象：都道府県および市町村

選定方法：対象期間中に JLAA 会員社が受託した地方自治体の地方創生事業のうち、優秀と思われる事業について詳細な資料を提出して頂き、審査委員会で審査を行い、各賞を確定しました

審査委員会：審査委員長：理事長 後藤 / 審査委員：副理事長、理事および役員（12名）

<最優秀賞>

◆事業名：群馬県高崎市「高崎ものづくり海外フェア事業」

活動コンセプト：現地イベント（「商談会」「メディアカンファレンス」など）の開催にとどまらず、イベント開催までの現地における「高崎（日本）＝ものづくりの街」としての空気醸成と商談機会の創出

（講評）

高崎市は、市内の企業の国際化を、海外の企業とのマッチングを実践していくことで推進してきていますが、通常、海外の展示会などにブース出展することが多い中、平成27年度はチェコ、ポーランド、平成28年度はシンガポールの各国で、市単独で商談会を企画し、現地企業に事前交渉を行い、非常に有意義なビジネスミーティングを行っている点が、非常に珍しく、優秀な取り組みだと思えます。

また、各国で、現地のPR会社を上手く活用して、現地での「Takasaki City」の記事露出をはかり、話題醸成も同時に行っている点、また、商談会終了後も、参加企業の国際取引のサポートを行い、海外への販売まで実現している点は、「単なる展示会出展」に終りがちな海外販路開拓事業に一石を投じる、新たな取り組みであると思われ、多くの地方自治体の見本になる事業であると期待されます。

～審査委員コメントからの一部抜粋～

✓地方行政による海外プロモーションは「展示会」「見本市」などのブース出展レベルにとどまり、その後の発展や具体的なビジネス展開は生まれにくいですが、現地でのPR会社との連携や話題づくり、バイヤーとの商談も成果が期待できる素晴らしい海外プロモーション事業展開となっています。

✓地方都市が単独で行った貴重な事例という点で、今後、全国でも参考にされると思えます。

◆事業名：三重県桑名市「桑名ブランド 首都圏パブリックリレーション」

活動コンセプト：「桑名ブランド」（本物力こそ桑名力）をキーワードとして、首都圏メディアから全国へ効果的に情報発信をすること

（講評）

桑名市は、首都圏にメディアへの情報発信拠点を設け、定期的な会議を行ってメディアが関心を持つニュース素材を開発し、ニュースリリースを毎月発信しており、非常に積極的な情報発信活動を実践してきていることがわかります。また、東京での「記者説明会」やユネスコの文化遺産に登録された石取祭の「プレスツアー」なども、非常に丁寧に企画されていて、多くの記事になっているようで、市のイメージ向上というテーマに果敢に取り組んできている様子がうかがえます。

また、観光や物産関係の広報活動はそれぞれのセクションの業務となっている自治体が多い中、桑名市は、広報課に相当するブランド推進課が各課と調整しながら、メディア対応を一元的に行っている点も、評価できます。

この事業を報道量の広告換算値だけで評価することは適切ではありませんが、平成 27 年度が 174,322,086 円相当、平成 28 年（今年度）が平成 29 年 1 月 31 日現在で 158,886,415 円相当と、年間事業予算額に対して 20 倍以上の結果になっていることも、事業の評価軸をきちんと設計されているという点で優秀といえます。

～審査委員コメントからの一部抜粋～

- ✓事業実施内容、実施効果がみえやすいので、評価しやすい。
- ✓プレスツアーやセミナーを実施しパブリシティを最大限活用することで広告効果を高めようとする姿勢がうかがえます。
- ✓PR 手法を取り入れた地域プロモーションの見本であり、地方の広告会社の取り組むべき PR 事業の手本となっています。
- ✓年間予算額に対しての報道露出量 21.2 倍強と、費用対効果の最大限の成果が生まれています。

◆事業名：京都府舞鶴市「舞鶴市首都圏 PR 活動事業」

活動コンセプト：舞鶴市の首都圏での認知度向上と観光誘客および引揚の史実の継承
(講評)

舞鶴市は、舞鶴引揚記念館収蔵の「シベリア抑留」および引揚関連資料の「ユネスコの世界記憶遺産（現：世界の記憶）」への登録を目標に、市が一丸となって、PR 活動を実践してきていることが、首都圏でのさまざまなイベント、シベリア抑留および引揚をテーマにした音楽劇「君よ生きて」とのコラボ、加えて、メディア向けの首都圏広報事務局の設置などから、良く理解できます。

平成 27 年には、「君よ生きて」の舞鶴公演に加え、10 月には世界記憶遺産に正式登録を果たすなど、首都圏 PR 活動によるパブリシティの質・量ともに安定的に獲得してきている点が素晴らしいといえるでしょう。

平成 28 年度は、舞鶴引揚記念館の学芸員にフォーカスした大きな記事が日本各地の地方紙で取り上げられるなど、戦後 70 年を経た今の日本にシベリア抑留と引揚の歴史を、正確に伝えていこうとする市の姿勢がうかがえます。

また、横須賀市、佐世保市、呉市と連携した日本遺産登録も実現させるなど、積極的に新しい事業を展開し、全国的な知名度を上げていこうとする活動は非常に模範的といえると思います。

～審査委員コメントからの一部抜粋～

- ✓多様なプロモーション方法で実施されており、事業効果も見えやすい事業です。
- ✓地方、地域にある資産を掘り起し、新しい目を向けさせることで、地方創生につながる事例として素晴らしい。
- ✓「ユネスコ世界記憶遺産」や「日本遺産」への登録という大きなトピックスを最大限活用し、積極的なメディアリレーションズによって首都圏のみならず広く全国に発信できています。

◆事業名：岡山県「平成 27 年度おかやま e 農産物ポイントキャンペーン事業」

活動コンセプト：幅広い年齢層の消費者におかやま e 農産物を周知するとともに、取扱店の PR を行うことにより購買を促進し、消費喚起を図る

(講評)

「特定の産品を有名にしたい、普及させたい」というプロモーションは非常に多く実施されていますが、「おかやま e 農産物」は化学肥料・農薬を低減し、環境にやさしい農業を実践している、認定済みの岡山県内で生産された農産物であり、非常に社会性の高い商材です。故に、消費喚起だけでなく、関係者全員の意識を高めていくこと自体が、長期的に見た時、地球にやさしい農業の実現につながっていくものと思います。

当事業では、メディア戦略などの広告活動も行っていますが、実際の業務では、生産者と販売会社の調整に奔走されている様子がうかがえます。報告書では、17,537,175 円がキャンペーンによる純増消費額として明記していますが、購買意欲の喚起と消費の拡大以外に、すべての関係者を巻き込んだ事業の推進により、岡山県民の意識のベクトルを変えたことの方が、むしろ、将来にわたった地方自治体のプロモーション活動と

しては、評価に値すると思われま

～審査委員コメントからの一部抜粋～

- ✓キャンペーンの実施結果が明確で、各種データ分析も行われており、継続的な事業展開が期待されます。
- ✓シールのキャラクターなどかわいらしく、楽しい感じがするので、女性をはじめ幅広い世代に愛されるトーンと見受けられます。
- ✓キャンペーンの認知経路で店頭が圧倒的に多かったという点が、商品特性とターゲットの関係性を示しており、参考になります。

◆事業名：岡山県岡山市「ヘルスケア産業創出・育成事業」

活動コンセプト：充実した医療・介護環境などの地域資源を生かし、新たな創業・商品開発を促進するため、産官学金労言による幅広い交流・連携などによるヘルスケア産業の創出・育成に取り組む

(講評)

日本全体の潮流としての莫大なヘルスケア産業（市場）をデータの的に理解した上で、岡山市内の企業がその需要を取り込めるか！という壮大なプロジェクトの初動を、シーズの調査、確認から、需要喚起、世論形成、そして、具体的な検討する場となるプラットフォームとしての岡山ヘルスケア産業連携協議会の設立まで、丁寧に業務を設計し、進行してきている事業として、非常に優秀です。当該分野だけでなく、地方におけるさまざまな産業の創出活動の模範的な事業といえます。

～審査委員コメントからの一部抜粋～

- ✓緻密な計画、運営が評価高く、説得力があります。
- ✓岡山版ヘルスケア新産業創出として、地域の企業との連携を最大限有効活用することを提案し、「セミナー」や「ワーキンググループ活動」への支援など地方創生のテーマとして非常に内容の濃い事業実績であった点が評価できます。
- ✓地元企業の強みを生かし「無理なく、確実に運営」というスタンスで提案している点が評価に値します。

<優秀賞>

◆事業名：秋田県「秋田定着意識付け事業」

活動コンセプト：県外に進学した大学生にふるさと秋田での就職や生活を意識付けし、将来的な若者の県内就職・定住につなげる

(講評)

地方における少子高齢化は、ほぼすべての自治体が直面している重要課題。しかし、一方で、高速鉄道と高速道路という交通インフラが整備され、インターネットが空気のようになりつつある現代は、学生が好むような就職先が都市部から地方に移動しつつあるのも事実。この多様化してきている社会の動きの中で、地元の企業人の話と、個々人の人生設計上、重要なライフマネーという、普段、なかなか真剣に考えることができないテーマにフォーカスして、学生に訴求した点が特徴的といえるでしょう。

～審査委員コメントからの一部抜粋～

- ✓人口減少などが進む全国の地方都市で、若者の流出は共通課題であり、人材育成、地元定着の意識付けなど、社会的意義のある取り組み事例です。
- ✓「地元で働く、地元の企業を知る」ことの機会づくりを大学1年生から行っていくことの意義は大きい。
- ✓イベント内容で、大学生にとって大きな関心事である「ライフマネー」をメインテーマに設定して実施した点はニーズに合致しています。

◆事業名：秋田県男鹿市「中学生向けまちづくりワークショップ～すべては未来の自分のために～」

活動コンセプト：「故郷を知り、故郷を想い、故郷のために働ける」人材の育成

(講評)

観光資源の開発は全国各地で行われていますが、この事業の優れた点は、地方自治体が避けて通れない課題を、逆に、チャンスととらえ、課題克服のための活動自体に中学生を巻き込むことで、大きな成果につながっているところです。これまでであれば、地域を巣立っていただけだった若い学生に、地域を見て、考えさせる機会を創出することで、観光資源発掘と地元への愛着を作りだしています。また、アドバイザーの吉井氏のコメントにある通り、故郷の改革を諦めかけていた大人が、若い中学生の自発的な活動に触発され、地域 DMO (Destination Management Organization) 作りにドライブをかけたことも評価に値するといえるでしょう。

～審査委員コメントからの一部抜粋～

- ✓地元住民と一緒に「住民参加型ワークショップ」を実施した点が素晴らしい。
- ✓次代を担う中学生たちを巻き込み、「ワークショップ」などの展開により、住む街の魅力を確認、発見し、その資源を活用した観光推進策を企画立案させ、さらには、大人たちに対してプレゼンテーションさせることで、大人たちを活性化。やがて、地域 DMO の形成に至るところまでになったという点が評価できます。
- ✓観光団体・旅行代理店への中学生自らによるプレゼンなど、教育的観点からも大いに有意義な活動です。

◆事業名：茨城県水戸市「谷中二十三夜尊骨董市賑わい創出事業」

活動コンセプト：自治体・地元商店会・地域住民が協働事業を行うことにより、地域の賑わいを創出する

(講評)

水戸市ならではの徳川光圀公が愛した庭園で、歴史的遺産を十分に活用した、地域の賑わいを作り出す企画として、基本に忠実かつ、地元の人に受け入れられる工夫がされている点が評価できます。水戸黄門でおなじみの格さんのモデル、安積澹泊（覚兵衛）のお墓があることを受けた「格の市」のネーミングも好感が持てます。第1回から3回まで、徐々に来場者が増えてきたことは、「骨董・蚤の市」というコンテンツの設計が良かったことの証明。今後の継続的な開催でどこまで規模が大きくなっていくかが楽しみな事業です。

～審査委員コメントからの一部抜粋～

- ✓地域の「にぎわい創出」のため、重要かつ話題性、継続性の高い「市」の開催事業の関心は高い。
- ✓「格の市」という手法で、歴史的な遺産を広く知らしめたことは地方創生の根幹といえる。地域の情報をしっかりつかみ、地元広告会社としての役割を果たしている会社であることの強みを生かした内容であり、第1回目ということで今後の展開に期待したい。

◆事業名：岡山県浅口市「浅口の土産開発」

活動コンセプト：平成29年中に、国立天文台が新たにリニューアルすることを機に県内外から浅口市への流入が期待されるなか、とりわけ、名物となる手土産がなかったことを危惧して土産物開発を浅口市が検討

(講評)

テレビや映画の撮影の舞台になり、急に有名になる地域で、お土産の商品開発が間に合わないということが各所で起きているようですが、浅口市の国立天文台のリニューアルも同様の状況といえるでしょう。しかし、拙速に開発するのではなく、商品開発という課題そのものをコミュニケーション・フックにしていく取り組みにこの事業の優秀さがあります。地方創生関係のプロジェクトで一番の落とし穴が、「有名にするためには何かを作らなければならない」という発想。「何かを作る」その活動そのものを通じて、有名にしていくという事業の設計がもっとあっても良いはずで、シンプルではありますが、模範的事业といえま

す。

～審査委員コメントからの一部抜粋～

- ✓メディア（タウン情報誌）を有効活用し、市民と企業を巻き込んだ事例です。
- ✓地方創生が目標に掲げる「ひと・もの・しごと」の中の「もの」に着眼した地域活性化策であり、「自分たちのアイデアで、自分たちの街の魅力なお土産を開発して、地域を活性化させよう」としています。
- ✓商品開発で小学生から大人まで巻き込み、いろいろな世代からアイデアを募集し、PRにつなげた点が評価できます。
- ✓実際の商品開発も地元企業に依頼するまでに流れをつくっていった点が興味深い。

以上

〈この件に関するお問い合わせ先〉

一般社団法人 日本地域広告会社協会 事務局

担当：廣田、菅原

TEL：03-3459-6194

URL:contact@jlaa.jp

* 下記の授与式関連の写真がご入用の際には事務局宛にご連絡下さい。写真データをお送りいたします。

＜3月21日 JLAA 会議室の授与式のもよう＞

最優秀賞◆三重県桑名市



向かって左から

伊藤 徳宇・桑名市長

後藤 一俊・JLAA 理事長

最優秀賞◆京都府舞鶴市



向かって左から

岡野 昌和・舞鶴市東京事務所所長

後藤 一俊・JLAA 理事長

優秀賞◆秋田県男鹿市



向かって左から

佐藤 一明・男鹿市産業建設部観光商工課観光班主幹兼班長

菅原 章・男鹿市教育委員会生涯学習課主幹兼生涯学習スポーツ班長

後藤 一俊・JLAA 理事長

<表彰状を地元で受け取った地方自治体>

最優秀賞◆岡山県



吉本 誠一郎・岡山県農林水産部農産課課長

最優秀賞◆岡山県岡山市



向かって左から

戸田 康宏・岡山市経済局産業政策課産業政策係係長

堤 修治・岡山市経済局産業担当局長

竹本 泉造・岡山市経済局審議監

(産業企画調整担当・産業政策課長事務取扱)

大塚 恒治・岡山市経済局産業政策課産業政策係主任

優秀賞◆岡山県浅口市



栗山 康彦・浅口市長

優秀賞◆茨城県水戸市



向かって左から

佐藤 健太・水戸市産業経済部観光化事業係長

草野 友宏・株式会社日宣メディックス事業企画チーム

優秀賞◆秋田県



高橋 修・秋田県企画振興部次長兼研究統括監